

〈育てたい子供像〉
きれいな心の子
大きな夢もつ子
笑顔いっぱいの子



12月(師走)に入りました

2学期のまとめと1年間の振り返りを

校長 宮崎新悟

雪化粧した立山連峰の雄姿が、厳しい冬の訪れを感じさせます。

11月は、支援型訪問研修をはじめ、黒部市地場産学校給食の日、避難訓練、児童集会に加え、各学年の校外学習、1年生と保育所との交流会など、本当にたくさんの行事が行われました。充実した学校教育活動の中で、子供たちが伸びやかに活動する姿を見て、本当にうれしい気持ちでいっぱいです。特に9日(木)に実施した支援型訪問研修では、富山県教育委員会、黒部市教育委員会からたくさんの先生方に来ていただきました。目を輝かせながら学ぶ子供たちや、よりよい授業を目指して熱心に指導する先生方の姿を見ていただくとともに、午後からの協議会や研修会では、確かな学力を身に付けていく子供たちの育成に向けて、たくさんのご助言をいただき、本当に充実した研修会となりました。



さて、12月に入りました。早いもので2学期も残すところ約3週間です。各学年、各学級では2学期のまとめにじっくりと取り組んでいます。一人一人が充実感をもって2学期、そして今年1年を終えることができるよう、各家庭におかれましても学習に取り組める環境を整えていただきますようお願いいたします。また、富山県内では11月下旬よりインフルエンザが流行しはじめています。食事や睡眠などに留意して規則正しい生活を送ることに加え、うがいや手洗いの励行、こまめな換気、必要に応じて予防接種を受けるなどして、お子様の健康管理に一層のご配慮をいただきますようお願いいたします。

“火災発生”を想定した避難訓練の実施

11月13日(月)に、今年度2回目の避難訓練を行いました。内容は、火災の発生に対応して避難するというものでした。グラウンドのバックネット付近まで避難するのに要した時間は3分31秒。昨年度より、約10秒タイムが縮まりました。6月に地震発生に対する訓練を行っ



ている経験が生き、子供たちはハンカチなどを口に当て、スムーズに避難することが出来たと思います。講評では、そのことを評価した上で、素早く安全に避難することの大切さ、また、災害はいつ発生するか分からないことから、発生したときにどのように動けばいいかを常に考えておくことの大切さなどについて話しました。子供たちには、最悪の状態を想定しながら、自分の身を守ることを常に考えることができるように指導していきたいと考えています。ご家庭でも、「もしもの時の約束事」について、ぜひ話し合ってください。

“育脳の科学” 脳を鍛える10の方法

子供の才能は3歳、7歳、10歳で決まる！

人工知能(AI)が飛躍的な進歩を遂げ、今後の社会や生活を大きく変えていくとの予想もされています。そのような社会を生き抜くためにも、物事をしっかり見つめ、考え、判断していく子供たちを育てることが、私たちに託された使命だと考えます。昨年度の学校だよりでも紹介しましたが、改めて脳を鍛えるということについて考えてみたいと思います。

数年前に、脳科学者、林 成之(はしなりゆき)先生の話を押聴する機会がありました。林先生は、富山県出身で、日本を代表する脳科学者の一人です。2008年の北京オリンピックでは、競泳日本代表チームに招かれ、「勝つための脳」=勝負脳の奥義について選手たちに講義を行い、北島康介選手など、日本選手の素晴らしい結果に貢献されました。「子供の才能は3歳、7歳、10歳で決まる！」は数多い著書の一つで、先生の話を押聴してすぐに求めて読ませていただきました。本書は、子供たちを年齢ごとにどのようにしつけ、教育すればよいのかを、脳医学の知見から分かりやすく解説してあります。例えば、右のような内容です。

興味深い内容がたくさん述べられていますが、「子供の才能は後天的に伸びる」「脳を鍛える10の方法」について、少し紹介します。

「才能は持って生まれたもの」と思われがちですが、才能は環境によって変化するそうです。つまり、子供が秘めている才能は、科学的な論理に基づいた“育脳”を行うことで、開花できるそうです。ちなみに、育脳に「手遅れ」ということはないそうです。そのような考えのもと、「脳を鍛える10の方法」が右のように紹介されています。非常に読みやすい本となっていますので、ぜひ読んでみられてはいかがでしょうか。

- ・望まない早期教育を受けさせられた子供は、勉強ができなくなる
- ・「3歳、7歳、10歳」が重要なターニングポイントになる理由
- ・「勉強しなさい」と言わなくても、子供が自主的に学習する方法がある
- ・子供の才能は後天的に伸びる
- ・脳を鍛える10の方法
- ・「いくら勉強しても頭がよくならない」には、理由がある など

◇脳を鍛える“10の方法”

- ①物事に興味をもち、好きになる力をつける
- ②人の話を感動して聞く
- ③損得を抜きにして全力投球する素直な性格を育む
- ④「無理」「大変」「できない」など否定的なことを言わない
- ⑤目標に向かって一気に駆け上がる
- ⑥「だいたい分かった」などと物事を中途半端にしない
- ⑦重要なことは復習し、繰り返し考える
- ⑧自分のミスや失敗を認める
- ⑨人を尊敬する力をつける
- ⑩“類似問題”で判断力を磨く

もうすぐ1年生、小学校は楽しいよ

1年生と、保育所・幼稚園の年長児との交流が行われました

たかせ小学校に来年度入学予定の保育所や幼稚園の年長児と1年生との交流会が、11月20日(月)に行われました。1年生の子供たちは生活科の学習で、どんぐりや落ち葉などを使って秋のお店(「楽しいけん玉屋さん」「葉っぱのお店やさん」など)をいろいろ考えながら、この交流会のために準備を進めてきました。当日は、手作りおもちゃを紹介したり、ゲームコーナーを設けて景品として手作りの小物をプレゼントしたりするなど、大変楽しい企画がなされていました。

大きな声で呼び込む「いらっしやいませー！」につられ、年長児は思い思いにお店やコーナーを回り、うれしそうな表情を見せていました。たかせ小学校への思いが膨らんだに違いありません。それにしても、年長児と1年生では、成長に大きな差が見られます。小学校で学ぶ1年間はすごいと、再確認しました。



トラブルをチャンスに！～子供たちが一回り大きく成長できる機会～

北海道でショッキングな事件が起こりました。中学1年生（12歳）の少年が、近くに住む20代の女性の背中を包丁で刺し、重傷を負わせました。調べによると、少年は「人を傷つきたい気持ちがあった」と話しているそうです。何が少年をそのような気持ちにしたのか…。

現代はストレス社会とよく言われます。このストレスを抱えているのは、大人ばかりではありません。子供たちも、子供たちなりにストレスを抱えています。特に学校では、家庭環境や育ち方が異なる子供たちが、一日の約半分の時間を一緒に過ごしていますので、ストレスがないはずはありません。

例えば、最高学年として、縦割り活動のリーダーになる6年生の状況を考えてみましょう。様々な場面で下級生に向かって話したり、指示を出したりするなど、大きな責任を担います。他の学年の子供たちも、学年が進むにつれて、友達関係も複雑になり、それまで見えていなかったものが見えるようになっていたり、感じなかったことが感じるようになっていたりします。また、友達の何気ない言葉に傷ついたり、逆に、些細なことで友達を傷つけたり。かっとなる気持ちを抑えられなくて、辛辣な言葉を発してケンカになったり、つい、手や足が出てしまったり…。私たち大人は、子供たちが、子供なりにストレスを感じているということをしっかり理解するとともに、そのストレスを受け止め、そのストレスが和らぐように心がけることが大切です。まずは、じっくりとお話を聞いてあげましょう。

さて、学校では、様々なことが原因で子供同士のトラブルが発生します。そのトラブルは、子供たちはもちろん、保護者にとっても、教員にとっても大きなストレスとなります。子供同士のトラブルが発生したときに、教師として、保護者としてどのように対応したらよいのでしょうか。

トラブルの背景には、必ず、何らかの大きな感情が働いています。それは、まさに生きている証であり、その子の性格や道徳観、価値観の表出です。このトラブルを解決し乗り越えるとき、子供たちは他者を理解したり新しいことに気付いたりして多くのことを学び、一回り大きく成長します。ですから、大人は子供たちが一回り大きく成長できる機会を一方的に奪ってはいけません。子供の心に寄り添いながらトラブルの原因や解決方法を一緒に考えて、子供自身が自ら解決に向けて1歩を踏み出すことができるように助言し、背中を押してあげることが大切です。

子供だけでは解決できない大きなトラブルは別として、些細なことが原因でのトラブルはチャンスと捉え、そのトラブルを乗り越えていく子供の成長を見守り、その成長を子供と一緒に楽しむ応援団でありたいと思います。



“読書大好き集会”が行われました

11月16日(水)に“読書大好き集会”が開催されました。全校合唱に続き、読書大好き委員会から低・中・高学年にお薦めの本の紹介がありました。また、読書大好き委員会の子供たちによる「ヤダヤダかめん」の読み聞かせがありました。楽しいストーリーに子供たちから大きな笑いが起こり、読書への意欲も一気に高まったようです。

電子メディアの急速な発展により活字離れが心配されるこの頃ですが、実は、子供たちは本が大好きです。先日、取り組んでいただいた「心あったか家族読書」のように、各ご家庭でも、お子さんと一緒に読書を楽しむ時間をつくることをお薦めします。まずは、読書をする環境づくりが大切だと思います。テレビやゲーム、スマホなど、メディアを使用しない時間をつくり、静寂



な一時を過ごす、ゆったりとした気分になれると思います。親子で同じ本を読んだり、小さなお子さんには、読み聞かせをしてあげたりするといいですね。

黒部市少年少女活動実践意見発表大会・善行青少年表彰式



青少年育成黒部市民会議が主催する黒部市少年少女活動実践意見発表大会、並びに、善行青少年表彰式が11月25日（土）に黒部市民会館で開催されました。善行青少年表彰では、たかせ小学校あったかプロジェクト委員会が表彰され、委員長の佐藤逞さんと副委員長の中川萌子さんが代表して賞状と記念品を受け取りました。これからも、あいさつ運動やあったか言葉、あったかアクションの推進に取り組んでほしいと思います。

大縄跳びの活動が始まりました

たかせ小学校の特色の一つである大縄跳びが始まりました。大縄跳びは、冬期間はグラウンドが使用できないため、全校リレーに代わって体育館で行う活動です。毎週水曜日は2・3・5年生、木曜日は1・4・6年生が、異学年縦割りの6グループで活動します。ルールは明解で、2分間で何回跳べるかを数え、記録を蓄積していきます。15分余りの活動ですが、子供たちは大きな声で回数を数えたり、跳ぶことが得意ではない子供に対して、跳ぶタイミングを教えたりしながら楽しく活動しています。



活動の後にはしっかりと振り返りを行っています。

これから数か月で、子供たちがどのように成長していくか、本当に楽しみです。

12月のおもな行事予定

☆PTA関連行事

- 12月1日（金）個別懇談会（2日目）学校集金引き落とし日
- 4日（月）人権週間（～10日）
- 5日（火）人権教室（5・6年生） 防犯パトロール隊 青パト出動式
- 6日（水）アルミ缶エコキャップ回収
- 7日（木）☆PTA第4回全体委員会（19:30～）
- 8日（金）委員会活動
- 13日（水）人権集会 アルミ缶エコキャップ回収
- 15日（金）学習習慣チェックデー
- 16日（土）黒部市ドッジボール交流会（総体セ）
- 18日（月）地区児童会（5限） 集団下校
- 19日（火）防犯パトロール隊
- 20日（水）アルミ缶エコキャップ回収
- 21日（木）給食最終日 ランチルームワックスがけ
- 22日（金）第2学期終業式
- 23日（土）天皇誕生日
- 25日（月）冬期休業（～1/8）
- 31日（日）大晦日
- 1月1日（月）元旦
- 7日（日）黒部市成人式
- 8日（月）成人の日
- 9日（火）第3学期始業式 給食開始 校内書き初め大会
- 19日（金）校内スキー練習会
- 20日（土）☆PTA親子ふれあいボーリング大会

